

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

一宮市地域公共交通会議

平成 1 9 年 2 月 9 日設置

令和 6 年 3 月 第 3 次一宮市公共交通計画策定
(計画期間：令和 6 年 4 月～令和 1 1 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・ 地域間幹線系統確保維持国庫補助金

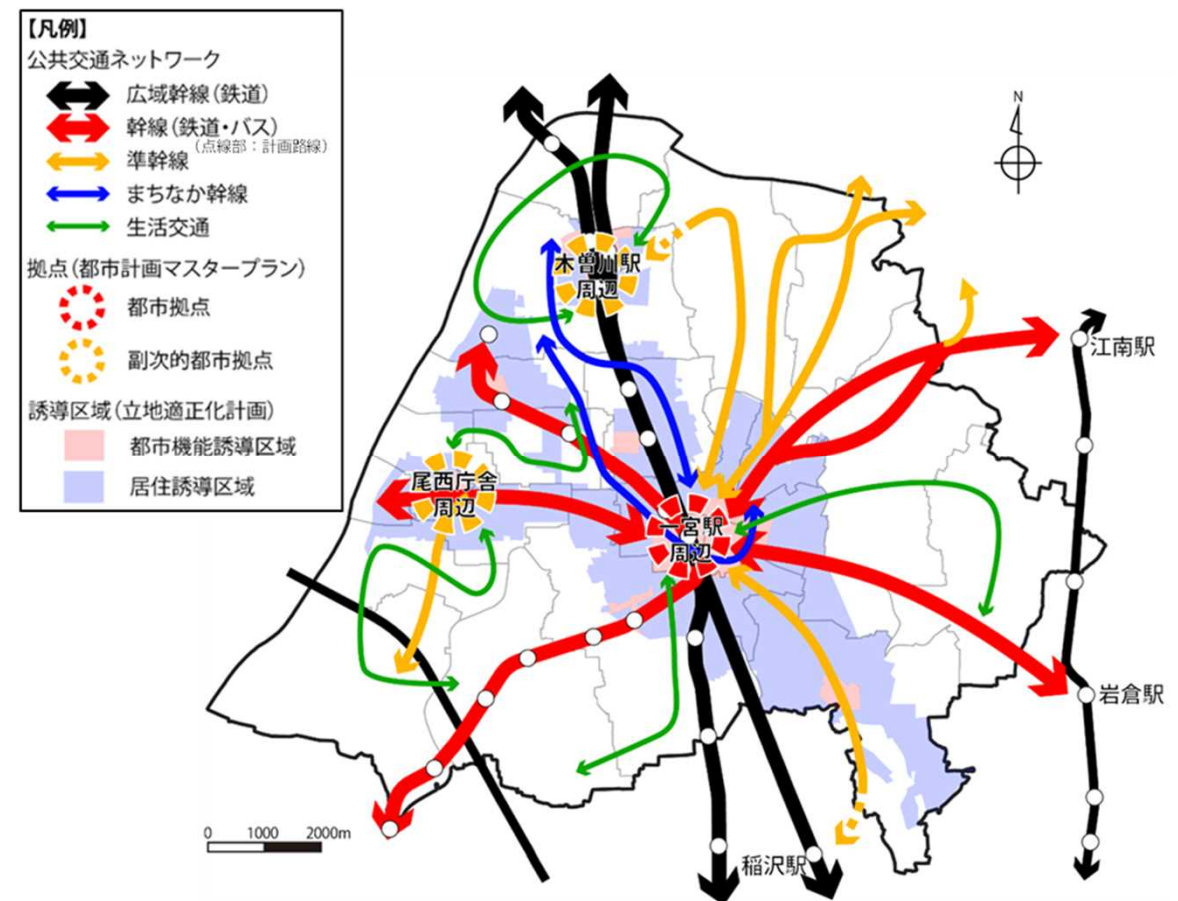
(1) 地域の特徴

- ・ 鉄道、路線バスが一宮駅を中心に放射状に運行
- ・ 路線バスの一部は市を跨いで広域的に運行

(2) 地域公共交通に関する課題

- ・ 地域公共交通ネットワークの質の保証
- ・ 移動制約者の外出支援施策の充実
- ・ 協働による移動手段確保の仕組みづくり
- ・ まちなかのにぎわい創出にむけた交通環境整備

(将来の公共交通ネットワークイメージ図)



(3) 第3次一宮市公共交通計画の基本方針

～「クルマがなくてもでかけやすいまち 一宮」～

- ①利用者ニーズに対応した質の高い公共交通の実現
- ②健康で元気な生活を支える公共交通の実現
- ③地域の皆さんと作る新しい公共交通の実現

（１）i-バスの見直しについて

■取組概要

- ・ 利便性を高め、利用者数の増加を図るため、コースの見直しを行う。
- ・ 見直しはi-バス6コースの中、収支率が特に悪い2つの路線を対象とする。
- ・ 名古屋大学大学院と協定を締結し、支援を受けながら見直しを実施した。

■実施結果

対象路線	概要
i-バス 木曽川・北方コース	<ul style="list-style-type: none">・ 木曽川町連区及び北方町連区と市は、令和6年11月から令和7年10月にかけて各4回の意見交換会を実施し、新コースの概要について協議した。・ 令和7年6月15日（日）には、地域内交通の改善・活性化のため、<u>木曽川町連区交通協議会</u>が設立された。
i-バス 尾西北コース	<ul style="list-style-type: none">・ 尾西地区（開明連区・小信中島連区・三条連区・奥町連区）と市は、令和6年12月から令和7年10月にかけて計3回の意見交換会を実施し、新コースの概要について協議した。

■考察

- ・ コース見直しではまだ課題が残っている。新コースの運行開始は令和8年10月を予定しており、地域で利用拡大の取組をしていただくとともに、運行開始後の利用実績等进行分析し改善策を検討する予定。

(2) MaaSアプリ等の情報技術の活用

■概要

- 令和6年11月1日（金）から、一宮市版MaaSサイト「イッテミーヤ」の運用を開始。
- デジタルチケット販売、デジタルスタンプラリーの開催（停留所を起点としたウォーキングコースを巡った方にポイント付与やノベルティ配布）等の取組を実施。
- 令和7年3月31日までは期間限定で65歳以上の方と18歳未満の方を対象に、一宮おでかけバス手形の購入費の一部を市が負担。（デジタル限定）

■実施結果

- デジタルチケット販売実績（令和7年4月～令和7年11月）

券種	デジタルチケット販売枚数（割合）		販売総数	
i-バス1日乗車券	大人12枚(4.0%)	小人0枚(0%)	300枚	6枚
i-バス回数券	22枚(0.3%)		7,670枚	
一宮おでかけバス手形	大人35枚(3.5%)	小人2枚(7.7%)	993枚	26枚



（トップページ）

※（）内は販売総数に占めるデジタルチケットの割合

- 【限定/年齢割】一宮おでかけバス手形販売実績（令和6年11月～令和7年3月）
販売枚数：大人19枚 小人4枚
- デジタルスタンプラリー実績（令和7年3月1日～令和7年3月31日）
条件達成者数：51人

■考察

- より多くの方に利用していただくため、更なる普及啓発、販売方法の見直しが必要

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7(11月時点)
助成期間（月）	3	5	10	8	11	8
1ヶ月あたりの市負担額（円）	173,666	166,000	174,500	199,625	195,590	195,375

(5) その他事業について

取組名称	取組概要	実施結果	考察
各種企画切符の発売	①「一宮おでかけバス手形」 ②「i-バス1日乗車券」 ③「回数券」の販売を継続	販売実績(令和7年4月～11月) ①：大人993枚、小人26枚 ②：大人300枚、小人6枚 ③：7670枚	PRの強化や運賃設定の検討などを進めながら、引き続き販売を継続する。
i-バス無料ホリデーの実施	市内の小中学生に対し、春休み期間i-バスに無料で何度でも乗車できるフリーパスを配布	令和7年3月25日～4月8日に実施し、計1,980回の利用があった。	i-バスの利用啓発のため、引き続き実施する。
小学生バスマナー教室の開催	小学校1校で3年生を対象にバスの乗車マナー講座、試乗体験を実施	地域の交通協議会および運行事業者の協力のもと、令和7年12月11(木)に開催した。	i-バスの利用啓発のため、引き続き実施する。
バスマップの作成・配布	市内公共交通を網羅した「一宮市公共交通マップ」を作成し、適宜配布する	令和7年度は15,000部作成した。	市内公共交通に関する情報発信および利用促進のため、引き続き作成する。



(一宮おでかけバス手形)



(i-バス1日乗車券)



(小中学生フリーパス)



(一宮市公共交通マップ)

○計画目標について

第3次一宮市公共交通計画の基本方針を実現するため、3つの目標と各目標に応じた評価指標、目標値を設定し、毎年の達成状況を確認する。

【目標① 公共交通の利用機会の増加】

評価指標	目標値	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	対目標値		
					差	達成率	達成状況
利用者数(バス全路線) (人/年)	現況(R4) 以上	4,148,796	4,424,396	4,420,527	271,731	106.5%	○
利用者数(i-バスミニ) (人/年)	現況(R4) 以上	681	400	582	▲99	85.5%	×
シルバーパス65・ゴールドパス70助成件数 (件/月)	現況(R4) 以上	228	260	262	34	114.9%	○
一宮おでかけバス手形 (枚/年)	現況(R4) 以上	2,518	2,485	1,995	▲523	79.2%	×

■考察

バス利用者数は目標値を上回ったが、i-バスミニ利用者数は目標値を下回った。コロナ禍から人流が戻ってきている一方で、i-バスミニは少数のよく利用される方の動向に影響を受けた増減となっている。また、おでかけバス手形については、令和6年度に値上げしたことで購入が大きく減少した。令和8年度に再度値上げを行うため、当初目標値の達成は困難であり、改定が避けられないと考えている。

【目標② 適切な受益者負担と行政負担】

評価指標	目標値	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	対目標値		
					差	達成率	達成状況
収支率(%)	現況(R4)以上	21.1	23.2	24.5	3.4	116.1%	○
利用者1人あたり行政負担(円/人)	現況(R4)以上	372	332	303	▲69	122.8%	○

■考察

各項目において目標値を上回った。利用者の増加により運賃収入が増加したことが要因であると考えられる。

【目標③ 市民との協働の推進】

評価指標	目標値	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	対目標値		
					差	達成率	達成状況
地域の取り組み件数(件)	3以上	2	2	2	▲1	66.7%	× (令和7年度達成)
新たな移動手段の実施件数(件)	1以上	-	-	0	▲1	0.0%	×

■考察

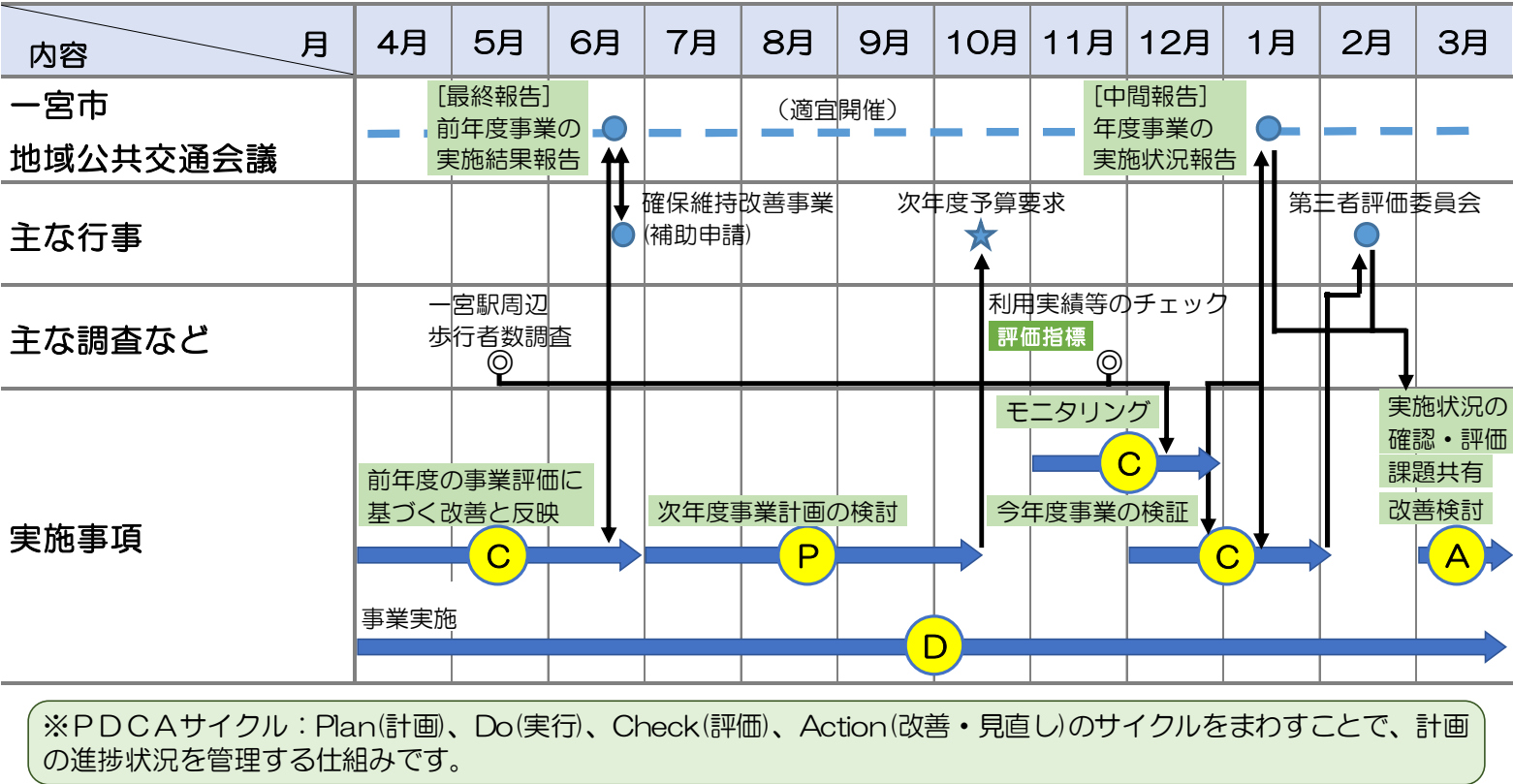
萩原町および千秋町にて協賛金集めの取り組みを実施。他の地域での取り組みや新たな移動手段の導入については検討中である。
※地域の取り組み件数については、木曽川町連区交通協議会が設立されたため、令和7年度に目標値を達成した。

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>【目標①】 一宮おでかけバス手形の販売実績は目標不達成であった。i-バス一日乗車券・回数券を含む各種企画切符の周知および利用促進を行うことが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none">販売状況および利用状況を踏まえ、チケットの形態や販売方法の見直しを進める。デジタルチケットを対象にした割引チケットを販売し、利用促進を図る。
<p>【目標①・②】 令和6年度のバス利用者数および収支率、1人あたり行政負担額は目標を達成しているが、経常費用は年々増加傾向にあり、更なる利用促進が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none">更なる利用促進のため、コースの見直しを適宜行い、サービスレベルの維持・確保及び利便性の向上を図る。公共交通マップの作成、バスロケーションシステムの充実などにより市民に加え市外からの来訪者にも幅広く情報発信を行う。
<p>【目標③】 市民との協働については、地域の交通協議会の協力のもと、協賛金の募集やバスマナー教室などを継続的に実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none">尾西地区および木曽川町、北方町でi-バスの見直しについて意見交換会を実施したように、諸問題を抱える地域に対して適宜協議を行う。新たに設立された木曽川町連区交通協議会については、利用促進活動について連携を強化していく。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回			
	該当なし		
前々回			

※前回：○年○月○日、前々回：○年○月○日

年間単位の評価スケジュール



直近 1 年間の協議会の開催状況

日時	会議名	主な議題
令和7年1月24日	第44回一宮市地域公共交通会議	一宮市版MaaSサイト「イッテミーヤ」について
令和7年5月29日	第45回一宮市地域公共交通会議	令和8年度地域公共交通計画認定申請書について
令和8年1月13日	第2回運賃料金部会	iバス一宮コースの特別運賃区間の廃止について
令和8年1月13日	第46回一宮市地域公共交通会議	iバスの見直しについて

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月13日

協議会名： 一宮市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス(株)	名鉄バス一宮・イオン木曽川線 一宮駅 ～木曽川庁舎 ～イオンモール木曽川	・期間限定で高齢者向けフリーパスの購入補助を行った。 ・バスマップの配布及び企画切符の販売を継続した。 ・一宮市版MaaSサイト「イッテミーヤ」の運用を開始し、各種企画切符についてデジタルチケットでの販売を開始した。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	A ・収支率は目標値36.32%(令和6年度見込+1%)に対し、実績は41.64%と目標を達成した。 ・乗車人数は93,271人であり、前年度より16,961人増加した。 ・経常費用は増加しているものの、利用者の増加により収支率が増加している。	・利用促進のため、公共交通マップの配布及び企画切符の販売を継続する。 ・高齢者向けフリーパスの購入補助を継続し利用促進を図る。 ・デジタルチケットの普及促進のため、限定の割引チケット等を検討する。
名鉄バス(株)	i-バス一宮コース 木曽川庁舎 ～名鉄一宮駅 ～市民病院	・バスマップの配布及び企画切符の販売を継続した。 ・一宮市版MaaSサイト「イッテミーヤ」の運用を開始し、各種企画切符についてデジタルチケットでの販売を開始した。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	A ・収支率は目標値32.29%(令和6年度見込+1%)に対し、実績は33.79%と目標を達成した。 ・乗車人数は95,198人であり、前年度より9,611人増加した。 ・経常費用は増加しているものの、利用者の増加により収支率が増加している。	・利用促進のため、公共交通マップの配布及び企画切符の販売を継続する。 ・小中学生を対象にした期間限定フリーパスの配布など、i-バスの利用啓発活動を進める。 ・デジタルチケットの普及促進のため、限定の割引チケット等を検討する。
名鉄バス(株)	i-バス尾西南コース 萩原駅 ～一宮医療療育センター ～萩原駅	・バスマップの配布及び企画切符の販売を継続した。 ・一宮市版MaaSサイト「イッテミーヤ」の運用を開始し、各種企画切符についてデジタルチケットでの販売を開始した。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	B ・収支率は目標値12.83%(令和6年度見込+1%)に対し、実績は10.91%と目標を達成できなかった。 ・乗車人数は34,401人であり、前年度より1,300人増加した。 ・利用者は微増しているものの、経常費用の増加により結果として目標不達成となった。	・利用促進のため、公共交通マップの配布及び企画切符の販売を継続する。 ・小中学生を対象にした期間限定フリーパスの配布など、i-バスの利用啓発活動を進める。 ・デジタルチケットの普及促進のため、限定の割引チケット等を検討する。
名鉄バス(株)	i-バス木曽川・北方コース 木曽川庁舎 ～木曽川市民病院 ～木曽川庁舎	・バスマップの配布及び企画切符の販売を継続した。 ・一宮市版MaaSサイト「イッテミーヤ」の運用を開始し、各種企画切符についてデジタルチケットでの販売を開始した。 ・住民懇談会を行い、バス路線やダイヤの見直しを検討した。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	B ・収支率は目標値9.00%(令和6年度見込+1%)に対し、実績は8.84%と目標を達成できなかった。 ・乗車人数は18,102人であり、前年度より1,173人増加した。 ・利用者は微増しているものの、経常費用の増加により結果として目標不達成となった。	・利用促進のため、公共交通マップの配布及び企画切符の販売を継続する。 ・小中学生を対象にした期間限定フリーパスの配布など、i-バスの利用啓発活動を進める。 ・デジタルチケットの普及促進のため、限定の割引チケット等を検討する。 ・利用者数の増加を図るため、コースの見直しを進める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月13日

協議会名：	一宮市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>「クルマがなくても出かけやすいまち一宮」を基本方針とし、通勤、通学、買い物および高齢者の通院など、さまざまな活動における移動手段を担う公共交通ネットワークを構築することを目指す。</p> <p>地域公共交通確保維持事業における対象路線については、公共交通ネットワークを構築する上で重要な役割を担っており、確保・維持が必要である。</p>